

バックンマックンが来校 NHK大学セミナー開催

6月19日、NHK大学セミナー(主催・NHKさいたま放送局、獨協大学)を天野貞祐記念館A-207教室で開催した。当セミナーは2003年から全国の大学で開催されている。今回は、国際派漫才コンビであるバックンマックン(パトリック・ハーラン氏と吉田眞氏)が、「笑劇的コミュニケーション力」と題した講演を行った。

2人はコント調のやり取りや軽妙な語り口で、外国人とのコミュニケーションの取り方などを解説。「英会話は多少文法を間違えても、会話を積み重ねることで意味を伝えられる」、「英語は中学・高校で学んでいるため、日本人のほとんどは話すことができる。スポーツと同じような感覚で、英語を話すトレーニングをすることが大切」といったアドバイスを参加者に送った。

本セミナーには、約250名が来場。前座では、本学お笑いサークル「ルナジリオ」がコンビ漫才を行うなど、会場は終始笑いが絶えず、大盛況だった。



外国人留学生が小学校で出身国を紹介

7月5日、本学交換留学生が、大学近くの草加市立栄小学校を訪問し、「総合学習」の授業の中で6年生に出身国の紹介をした。訪問したのはハインツェルマン・ユストゥスさん(ドイツ)、チョウ・テンシンさん(台湾)、キム・ナヨンさん(韓国)。3名は用意してきたスライドをスクリーンに映しながら、母国の文化や食べ物、観光地などを日本語で説明した。通貨やお菓子を持参するなど、それぞれが趣向を凝らした内容だった。その後、行われた質疑応答では、「なぜ日本に留学しようと思ったのですか」「日本語を覚えるのにどのくらい時間がかかりましたか」「一番多く生産されている工業製品は何ですか」といった質問が途切ることなく続いた。授業終了後には、小学生と一緒に給食を食べ交流を深めるなど、3名は普段できない体験を楽しんでいる様子だった。



オープンカレッジ特別講座

『中世の富裕層—民衆のみた「長者」のすがた』

7月27日、天野貞祐記念館大講堂にてオープンカレッジ特別講座が開催された。本特別講座は、社会人向けの生涯学習講座である「オープンカレッジ」の無料講演会として年2回開催している。台風6号が心配されたが、大きな影響もなく盛況のうちに終了した。

今回の講師は新井孝重経済学部教授。平治の乱で敗北した源義朝に仕えた長田庄司忠致(ただむね)の生き方を通じて、「長者」のありようを講師の専門分野である経済史的観点から講義した。長田は落ち延びてきた主人義朝を湯屋にて殺害の上、自分の手柄にして平家に取り入る。平家衰退後、頼朝の代となると逆に源氏側につくが、義朝に行った強欲な行為が原因となり滅ぶことになる。こういった史実をたどる一方で、中世社会構造の中の「長者」に焦点を当て、村落共同体とは一切関わらず遠隔地交易を行う商業民としての役割についても述べた。会場には約270名が集まり、配布されたレジュメの地図や文献などを確認しながら熱心に聞き入っていた。



「子ども大学そうか」本学で開催

7月6日、創立50周年記念館(西棟)で「子ども大学そうか」の入学式と授業が行われた。「子ども大学そうか」は、草加市と本学が共催する社会教育事業で、今回で5回目の開催。草加市内の小学5・6年生が、本学キャンパスなどで計5回の授業を体験する。「子ども大学」は、ドイツで始まった子ども大学をモデルとして、2009年に埼玉県で始まった。

入学式には、抽選で選ばれた約30名が参加。犬井正学長は「来年は東京でオリンピックが開催されますが、子ども大学ではスポーツやオリンピックのことが学べる授業もあります。講義を通して、元気に、楽しく、先生たちと一緒に新しい発見をされることを願っています」と挨拶した。その後、会場をアクティブラーニング教室に移し、金秀晶国際教養学部教授による講義「やっぱり韓国語!」を実施した。

本学では10月12日(土)に、山田恒久法学部教授による第4回子ども大学そうか「法と裁判のしくみについて学ぼう」を実施予定。

